

これからもすつと

上江洲 紫音

今から六十九年前 この平和だった沖繩が

戦場になり 本当は町なのかわからないほ

どひさんな戦いでした。

地上戦が始まったのは 一九四五年四月一

日でした。

きれいだっ たとぐちの浜の海が 急に黒く

なっ たみたい に 黒い船が 数えきれないぐら

いたくさんあつ たそう です。

住民皆がガマにひ難して おびえていたそ

うです。

戦争で 七くなつ たのは 住民だけでなく

日本兵もアメリカ兵も 自分の家族を残して

死ぬ覚悟で戦地へ行つて 国のために戦つ たん

だなあと思ひました。

残された家族も 赤紙が届いた時は とて

も心配で恐しかつ たんだなあと思ひました。

六月二十三日 牛島軍指令官が 摩文仁の

丘にてじけつし、 沖繩戦が 終結しました。

現在 摩文仁の丘は 平和祈念公園になっ
 ていて 沖縄戦についで資料がある 平和
 祈念資料館や 永遠の平和への願いが込めら
 れて創られた 平和祈念像がある 平和祈念堂
 があります。

他にも 戦争で亡くなった人達の名前が刻
 まれている 平和のいしじもありません。

毎日 六月二十三日のいれいの日になると
 多くの方々が いしじの前に手を合わせに来

て 何かを語りかけていることもわかりまし
 た。

私達 古堅小学校六年生は 六月十五日に
 学芸会をすることになっ ていました。

学芸会では 永遠の平和を願ひ続けられ
 を元に 平和に関するゲキをすることになり
 ました。

私のひいおじいちゃんやひいおばあちゃん
 は 戦争体験をしていて どのちも生き残っ

ていて 戦争の話を聞く前に 七くなっ てし
 まったけど ひいおじいちゃんとおばあ

ちやんや、他の戦争で七くなつた人達の思ひ
 を伝えるために、ゲキの練習を頑張りました。
 初めは、皆の前で演技をするのがはずかし
 かつたけど、はずかしがうていたら伝わらな
 いと思うと頑張ることができました。
 私は、平和学習をする前、何で平和学習な
 んかするんだらうと思つていました。
 でも、ゲキの練習をしていて、わかつたこ
 とがあります。
 それは、もう二度とこの沖縄を戦場にしな
 いようにと、私達に言つていくかもしれな
 いことです。
 私は、そのことがわかつて、いつまでも見
 守つてくれているんだなあと思ひました。
 これからいつまでも、この守り続けたこの
 島、沖縄を戦場にせず、平和な美しい沖縄であ
 り続けられるように、一人一人の命を大切に
 していきたいです。